



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## 卒業によせて

全校児童が集まるところで、ずっと語りかけてきたことがある。

それは、「あいさつ・なかま・まなび」ということだ。

あいさつとして投げかける、ちょっとした声かけ、気遣い、まなざし…これらは自分らしさを輝かせていく助けになるものだ。人を支える力も持っている。「あなたがいてくれて…」そんなことばが返ってくると、幸せになれる。ことばが宿している力、ことばの向こうにあるものが、人と人をつないでいく。

「学級のみんなでつくったんですよ…」と、6年の先生から、一篇の詩を紹介してもらった。子どもたちがことばを出し合って、練り上げていった詩だという。

もし 君の喜びに気づいたら  
その喜びを分かち合おう  
「よかったね」って 嬉しくなって  
笑顔で みんなでいっしょに 喜ぼう  
みんなで喜ぶと きっとその喜びが  
何倍にも大きくなるから

もし 君の悲しみに気づいたら  
君のとなりで はげまそう  
なぜ悲しんでいるか しっかり考えよう  
君の気持ちが軽くなるように 笑顔になるように  
いっしょに乗りこえていこう

自分の心を 見つめなおしてみよう  
それが誰かの悲しみを  
その悲しみに負けない喜びに  
変えるかもしれないから

この詩に出会った瞬間、「ああ、これでもう安心だ…」と、そう思った。これはその学級だけでなく、6年生の、どの学級にもしっかりと根づいていると思えたからだ。

教室で学ぶ子どもたちの心が、よりよいものをめざして一つの方向に向かい出すと、思いも及ばない、すばらしいものができあがる。まなびのもつ力は大きく、実に豊かだ。

卒業していく子どもたちは、「あいさつ・なかま・まなび」という宝を、しっかりと自分のものにしていってくれた。そう受けとめている。子どもたちの未来に幸多かれと祈っている。

卒業、おめでとう。

学校長 大林 道範